

Photo Masao Kobayashi

神戸の名木

相楽園のそでつ



所在地—中央区中山手通五丁目
地下鉄山手（県庁前）北二〇〇m
相楽園の小高い丘の一角に群生
している。そてつは「蘇鉄」と書く
樹勢が衰えたとき鉄クギを打ちこむ
とよみがえると言うことから蘇鉄
の名が出来た。樹齢二〇〇年



旧居留地散歩⑨

PRODUCED BY KOBE DAIMARU



GENIUS GALLERY

ジーニアス・ギャラリー

年内無休(31日☉は6:00PMまで)
新春は1月3日☉から営業(1月3日☉は6:00PMまで)

神戸市中央区西町33

●ジーニアス・ギャラリーへのお問い合わせは
大丸神戸店(078)331-8121まで





LA MAISON DU CHOCOLAT

メゾン・デュ・ショコラ / ジーニアス・ギャラリー1階

ユニークな構造と空間で構成されている
ジーニアスギャラリーの中でも、ひときわ味
わい深い雰囲気とアーティストックな魅力
を持っているのが、パリで一番と定評のあ
るチョコレート専門店「メゾン・デュ・ショコラ」
のショップです。ひと粒、ひと粒、丹念に作り
あげた芸術品ともいえるチョコレートを、味を
損なわないよう、厳しい温度管理のもとに、
パリから空輸。最高級の素材を使い、手
作りで仕上げた繊細な味わい、あなたの
最高級のあの人に……。バレンタインの
プレゼントにもぴったりです。



- ① ギフト(チョコレート×8、ギフトボックス入り) 2,200円
- ② コローラ(100g) 1,400円
- ③ ギフト..... 1,000円
(チョコレート×2・キャラメル×2、ギフトボックス入り)
- ④ ギフト(チョコレート×3、ギフトボックス入り) ... 960円

★ご希望に合わせて、箱づめもいたします。
チョコレート(1個) 220円
ギフトボックス 300円~600円

※表示価格の3%を消費税として別途頂戴いたします。



舞扇がとりもつご縁で

川瀬 あけましておめでとうござ
います。楽正師匠は、昨年「文部大
臣賞」を受賞されたり、楽道師を
芸養子に迎えられるなど、おめだ
た続きでございましたね。

楽正 おおきに。私は舞扇が取
り持つ縁で、楽道のお父さんも、
お母さんも兄弟も、家庭の皆さん
で応援して下さい。大の仲良し
だったお父さんの昨年が三回忌、
縁というのはおかしいでんあ。



川瀬喜代子オーナー



山村楽正先生

私の人生は、お扇子が中心で廻
っていて今の私があります。お扇
子でいい出会いが出来、弟子と孫
弟子と、曾孫弟子もいて幸せです。

川瀬 私の人生も珈琲がとりもつ
ご縁で、いい出会いを頂いて(笑)
山田五十鈴先生とも珈琲で…。そ
して、山田先生からのお引き合わ
せで楽正さんと……。

楽正 私も南座へ観せてもらいに
行きましたら、楽屋へ来てもらい
たい。テレビの名人会も、舞も観て
いて、ぬくい人やぬくい人や(笑)

三林京子も、学生時代うちへ稽
古に六・七年来ていました。山田
先生のお弟子にして頂いています。

先日は、川瀬さんから「玉子と
木彫」の二本が届いて、まあ美し
いとびつくり。実物も観せて頂い
て、何と執念のこもったこと、根
性を持つていはると感心して……

川瀬 いやーお恥しい。私は、玉
子も木彫も削っている時、全然肩
が凝らへんのに、楽正先生の地唄
舞の舞台を手の流れ、裾さばきと
一生懸命、観ていたら、肩が凝っ
て(笑)

それに私はスポーツ観戦が大好
きで、バレーボールはテレビ観戦
では飽き足らず、会場へ行き、

「日本チャチャチャ」と一生懸命
応援していたら、帰りに肩が凝
って、肩が凝って……(笑)

楽正 私も昔、力道山が大好きで
吉村雄輝さん、亡くなった花柳有
洗さんと三人で、かぶりつきへよ
く観に行きました(笑)何を観て
も私は芸のこやしになりますね
ん。

川瀬 それにしてもテレビの名人
会のアドバイスがお上手ですね。

楽正 短時間なので、ほめるとこ
を一つ、注意すること一つと心
掛けています。テレビのおかげで
道を歩いても皆さんが声を掛
けて下さるので、普通の舞踊家さ
んだと限られた世界の方でしょう
が、それは幅広いお客様が舞を観
て下さるので有難たいですわ。

私ら、師匠の芸は、弟子を仕込
んで成りたつんで、東京、名古屋
もお稽古してますけど、弟子の稽
古そく自分の稽古。好きな踊り踊
って研究し、修業させてもらえる
のは幸せです。奥さんの玉子一つ
にかける情熱ときれいな仕上りを
見ていたら私も負けられへんわあ
(笑)

川瀬 楽正先生の舞台はお人柄が
あふれて素晴らしい。大ファンです。

楽正 今日は憧れの神戸で、大好
きな仏蘭西料理頂いて、ほんまに
幸せでした。おおきに……

川瀬 今年も増々のご活躍をお祈
り致します。いい舞台を見せて下
さい。

(シエ・ラ・メールにしむらにて)



あけましておめでとうございます

シェ・ラ・メールにしむら

Tel 078-242-2467月曜休
AM11:30-PM2:00 PM5:00-PM9:30

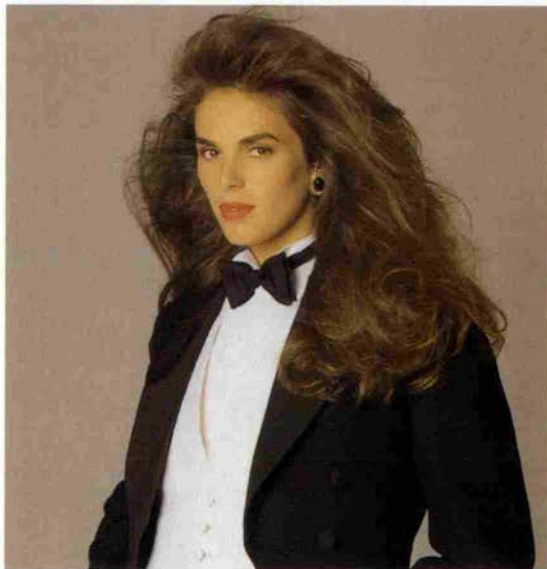
にしむら珈琲北野店2階の
シェ・ラ・メールにしむらは
会員制ではございません。

1992年
元旦

“THE CREATION OF BEST QUALITY”

謹賀新年

平成4年 春



創業明治16年 柴田グループ
柴田商事株式会社
東京柴田商事株式会社
柴田ブリティッシュ・テキスタイル株式会社
ドームル・ジャパン・リミテッド
株式会社柴田音吉商店
株式会社オー・エス・ソーイング
株式会社サンロイヤル
メルシードール株式会社
柴田不動産株式会社

「柴田音吉洋服店」は、明治16年にミナト神戸のハイカラな文明開化の中で、初代柴田音吉が日本最初の手づくりのお誂え紳士服専門店として元町通りに誕生させた。二代目音吉は世界最大の服地商社ドームル社と総代理店契約。三代目高明は柴田商事を設立し、ヨーロッパよりファッション商品の輸入を始める。四代目音吉は9社からなる輸入トータルファッション総合商社「柴田グループ」に発展させる。今、1992年の創業110周年に向けて“THE CREATION OF BEST QUALITY”シリーズを本物を愛する人々に心こめて贈ります。

本店 神戸市中央区元町通4-2-22 ☎341-0693
本社事務局 神戸市中央区元町通3-1-17 ☎391-4534
西日本営業本部 大阪市中央区高麗橋2-1-11 (柴田グループ第3ビル)
東日本営業本部 東京都中央区八丁堀2-21-11 (柴田グループ第7ビル)
ヨーロッパ事務所 VIA G. VIGONI, 7 MILANO



JSDF
20MM GUN



JSDF
127MM GUN

Shu Enoki

これは神戸を愛する人々の雑誌です。
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です。

新年号目次 ● 1992-1369

表紙 / 故小磯良平名作シリーズ

セカンドカバ / 西村功

11 神戸っ子92 / 金岡みゆき

13 神戸っ子92 / 西沢魁作

14 ある集い / 兵庫M.G.会・神戸甲南会

17 コウベスナッフ / 日本丸・海王丸 / 豪華客船飛鳥入港

18 アートインタビュー / マーク・エステル

20 神戸の名木 / カメラ・小林政夫

31 わたしの意見 / 牧 冬彦

32 神戸文学賞発表

35 ポエム・ド・コウベ / 時里二郎 絵・石阪春生

36 随想二題 / 北尾浩一・福元早夫

38 地域文化論 / 米花 稔

40 新春エッセイ / 安水悦和え・中西勝

42 甲南大学開学40周年記念シンポジウムより

都市は市民の魂

44 トランベット片手にブラジル一人歩き / 右近雅夫

46 新春ビッグ対談 / 冒険野郎は語る 三浦雄一郎VS堀江謙一

54 さわやか対談 / 良原俊民兵庫県知事VS新井 満

61 新春特別対談 / 神戸の文化構築の展望を語る
笹山幸俊VS乾 由明

64 キャンペーン座談会 / コンベンション都市 神戸を
語る 馬場茂明・鬼塚喜八郎・中内 力・北川 勲

弓倉恒男・室田民雄

70 ふたたびプロフェッサーの研究室 / 岡田 淳

72 Oh / タカラツカ / 岡田 敬二・涼風真世・麻乃佳世

76 ファッションスポット

84 神戸のお嬢さん / 山崎裕子・伊藤陽子

104 ネオモータゲメルヘン / マウリツイオ・ガランテ
篠原順子

114 亀井一成のズーム・イン・ZOO

カッタちゃんの妹ハワラ

128 Kobe Topics

130 神戸を福祉の町に / 橋本 明

132 有馬歳時記

134 モダンカルチャー

136 シネマ試写室 / 『夢の降る街』・淀川長治

138 神戸百貨店会だより

140 ポケットジャーナル

142 るぼるたじゅ神戸 / 筑紫舞 文・有井 基

144 神戸文学賞選考座談会 / 鄭 承博・武田芳一・杜山 悠

145 神戸っ子倶楽部会員情報

152 神戸文学賞受賞作品発表

168 スイート対談 / 松宮隆男VS村上和子

174 北野物語 / 文・宮本豊子 写真・中村年延

176 海・船・港 / ノスタルジック・クルーズ 田間貞雄
目次写真 / 櫻 忠

カメラ / 米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田篤志

森田純三・泊 浩久

謹賀新年



“神戸三田”国際公園都市・フラワータウンの街並み

公社分譲住宅募集(予定)のご案内

団地名	所在地	沿線	戸数	構造	募集予定時期
加西尾崎(3)	加西市尾崎町字野田西	北条鉄道「北条町」駅	11戸	木造 土地付一戸建	4年1月下旬
社嬉野台(2)	加東郡社町山国字猪ヶ谷上池	JR加古川線「社町」駅	19戸	簡易耐火 土地付一戸建	4年2月中旬

ゆたかな住まいづくりをめざす!!



兵庫県住宅供給公社

神戸市中央区下山手通4丁目18番2号(兵庫県公社館内)

☎078(232)9532(分譲課) テレホンサービス ☎078(232)9500

立ち止まっては話のつづき……
 冷たい風も、
 街の喧噪も、
 時間も忘れて……また立ち止まる。
 いいな——仲間達。



ダッフルコート (ダウン)

¥ 37,000

セーター

¥ 13,800

柏木進人さん

ダッフルコート ¥ 47,000

セーター ¥ 13,800

吉井正幸さん

ダッフルコート ¥ 73,000

セーター ¥ 34,000

郭 栄洲さん

マウンテンパーカー

¥ 35,000

セーター ¥ 18,000

山崎仁嗣さん

フォルターズ (神戸JCテニス同好会)

MAC
 SINCE 1895 KOBE

HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651
 SANNOMIYA MAC
 THE BLAZER SHOP MAC
 DOLCE MAC
 FESTA MAC
 BENETON MAC
 BENETON MAC
 SUNVIOLA MAC
 PLENTY MAC

SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895
 TOR-ROAD 078-391-0896
 SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141
 HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738
 HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333
 AKASHI FORUS 4F 078-913-8142
 TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830
 SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

賀正

左から中村広子先生、岩本通恵さん、ウィルマー・クリセルさん、クラウディオ・バスケスさん、池田佳子さん、見取千代子さん



新年を祝う小さな集まりには、洋風感覚でしゃぶしゃぶが楽しめるアンナアンへ。前菜からデザートまで洗練されたセンスと工夫で、心輪会、心和会（琴・三絃線・尺八）の皆さんも大のお気に入り。楽しくて、あたたかいしゃぶしゃぶは、万国共通のおいしさです。

- 会席しゃぶしゃぶコース ￥4,000
おしゃれな会席としゃぶしゃぶ。魅力いっぱいのコースです。
- スペシャルしゃぶしゃぶコース ￥3,000
特選牛ロースのやわらかさを自家製ゴマダレでお楽しみ下さい
- 食べ放題パーティーコース ￥5,000
4名以上で牛ロースの食べ放題。新しいパーティーの提案です

unā
しぐさアンナアン

しゃぶしゃぶ専門店
アンナアン
神戸市中央区三宮町1-10-1
☎(078) 391-3964

営業時間
ランチタイム AM11時～PM3時
ディナータイム PM5時～PM9時

□私の意見

六甲山を 神戸の セントラル・パーク に据える

牧 冬彦

△神戸商工会議所会頭▽



神戸の街の特色といえ、明るくて、開放的で自由な雰囲気のある街であるということです。これを大事にしなければならぬ。こんな気風もいきなり生まれたものではない。港湾都市として一貫した流れのなかで育まれてきた、街の特色であって、神戸の経済界も、そんな流れと表裏一体となって歩んできており、他都市に比較しても格段の違いのあるところでは。

神戸という街は、早くから世界にひらかれた街であり国際性豊かな街です。そこに神戸のハイカラ文化が生まれ、そして、それが神戸のファッション都市づくりとなり、「神戸ファッション」があるわけで、戦前から、神戸のファッションは老舗であり有名であったのです。

第六次空整で、神戸沖空港も組みこまれており、いよいよ出番だという思いが深いのです。勿論、関西新空港と一体化して計画を進めて、需要に対応していくべき事業ですが、海港の神戸が、空港を持つ意味は深いと思います。さらに既に決定済みで、着々と進められている巨大プロジェクトに「明石海峡大橋」があります。平成九年度に完成の予定ですが、この大橋の経済的なインパクトは測り知れないものがあります。

私は日頃から、神戸という街の魅力、素晴らしさは、自然環境にあると言っています。海と山に囲まれた、自然と街とが一体となっているところに魅力があります。

六甲山を街の中心部に据えて「セントラルパーク」として位置づけてはどうかと提案したいものです。自然との共生、自然も放っておいては保護にならない。よく手入れをして環境を守ることが大事だと思います。

私も三十年以上神戸に住み、神戸の発展を目の当たりに見て来ました。本当に素晴らしい街であり、未来の展望が持てる街です。とくに神戸のウォーター・フロントには夢がいっぱいのプロジェクトが目白押しで楽しい限りです。私も何か市民の皆様方のお役に立てればと願っております。神戸の街をよくしていこう」という想いは誰れにも負けないつもりです。

月刊神戸っ子主催〈第16回〉

神戸文学賞発表

昭和51年、小誌は創刊15周年記念事業として、作家を志す有為の新人に新しく道を開くために「神戸文学賞」および「神戸女流文学賞」を創設し、第12回目より、さらなる質の向上を図るため、両賞を「神戸文学賞」に一本化し、作品募集地域を西日本より全国に広げました。第16回作品募集は、昨年8月末に締切り、全国各地から多数の応募作が寄せられ、別記の選考委員により最終選考を行い、左記の作品を第16回の受賞作・佳作と決定しましたので、ここに発表します。△授賞式は1月17日（金）生田神社会館にて行います▽

○神戸文学賞受賞 白石美保子△しらいし・みほこ▽

「香水はミス・デイオール」



△略歴▽
愛媛県今治市生まれ。5年前に小説を書き始めたばかりだが、その力量は高く評価されている。3年ほど前に同人誌「BIBLOS」で活動を始め、寡作ながら佳品を発表し続けている。
△受賞のことは▽
信じられない気持ちです。受賞の報を受けた時には、かつがれているのでは、と思っただけでした。今後も自分のペースを崩さず、本当に自分の書きたいものを年1作くらい書いていきたい。

○神戸文学賞佳作 田吉 義明△たよし・よしあき▽

「南蛮寺門前町別れ坂」



△略歴▽
長崎市在住。長崎大学商科短大を卒業後、長崎県内の中学校教諭を歴任し、平成元年に退職現在に至っている。
△受賞のことは▽
この度は思いがけなくも、選に入れていただき、光栄です。これを励みに、今後とも時代小説に努めたいと思います。まことにありがとうございました。

○受賞候補作

- 「南蛮寺門前町別れ坂」田吉義明 △長崎県▽
- 「天蓋の星」柏木抄蘭 △兵庫県▽
- 「銀河宇宙」中島文子 △鳥取県▽
- 「二人の夏」富永直樹 △兵庫県▽
- 「夜、緑の、深い、茂みに」真壁潤一 △兵庫県▽
- 「泣く獣」妹尾まどか △北海道▽
- 「クリスマス・カロール」中野晃輔 △大阪府▽
- 「リバーサイド・ホーム」理崎 雫 △大原市▽
- 「香水はミス・デイオール」白石美保子 △愛媛県▽

○選考委員 杜山 悠

- 武田 芳一
- 鄭 承博

主催 月刊 神戸っ子

●第16回神戸文学賞受賞者

白石美保子（しらいし・みほこ）

人間の心理を描き続けたい

今治市生まれ。現在は、ご主人の経営するガソリンスタンドの事務と主婦業を両立させて、そのかたわらに小説を書くといった、多忙な毎日を送っている。受賞作の「香水はミス・ディオール」は、夫婦がその原点であるという。「人間は一人一人が別のものである、しかし実はとても寂しいものだ」ということをテーマに書いたのだそうだ。小説を書き始めて、まだ5年しか経っていないのに、かなり高い評価を受けているという情報もある。

そんな白石さんが一貫して描くテーマは「ひとことと言えば人間の心理。心の底にある優しさや残酷さ」という。そんなものがあつて、初めて人間と言えるのだと思うんです」と語った。3年ほど前からは同人誌「amigo」で活度を始め、佳品を発表し続けている。作品を仕上げるのに「一番時間をさくのは推敲、ひとつひとつの言葉にこだわるタイプだ。今後も変わりなく「年1作くらいペースで書き続けたい」と目を輝かせた。



Juchheim's

Die große und kleine Backwarenwerke
Kake - Pfaffenlocher am Rhein
Seit 1881

感動を呼ぶ贅沢

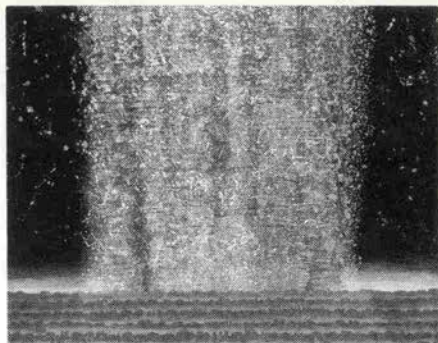
ハイデザント

ざっくりした歯ざわり、バターたっぷりの豊かな風味。
すべての素材に最高のものを選び、
ナッツとチョコレートを贅沢に使って焼き上げた
ビスケットの名作です。
ティータイムに感動的なおいしさをお届けします。

ユ-ハイム



KAKINUMA GALLERY



「虹楼む場所」

(油彩)

高沢圭多・作

兵庫女子短期大学助教授

色々モチーフに思い悩んできて、今「虹」
を描くのが多くなった。「何故？」と聞かれ
るといつも困ってしまうのだが、今の自分を
表わすには素直で無色なものと思っている。

(柿沼産婦人科に展示1/1~1/31)

芦屋 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)

月曜～土曜まで診療しています。木曜・土曜は午前のみ。

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

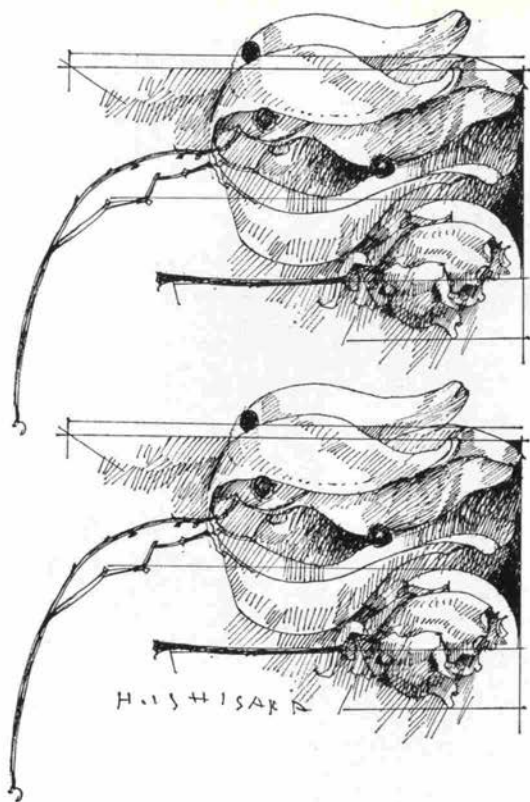
星宮記

時里二郎

カット／石阪春生

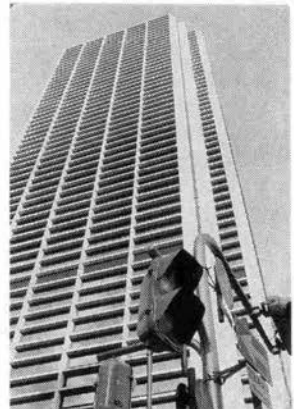
影揺する星都のしづく尋ねれば魂たまの光ぞわが裡にすむ

その夜もまた遙かな星の都から蹴上げられた鞠の光芒をはなつて、
紅い流星が都の空に走った。



第二回富田碎花賞受賞
書肆山田「星痕を巡る
七つの異文」より

随想 二題



SIGHTSEEING KOBE 7.
神戸市庁舎

神戸の星物語

北尾 浩一

星の伝承
研究室



神戸で暮らす人々は、かつて、海と山と星にかこまれて、眠りについた。もし、一日だけでも一〇〇万ドルの夜景を消すことができれば、再び満天の星がひろがり、人々は星たちのめぐるゆりかごに、ゆられて眠りにつくことができる。

どんな気持ちだろうか。満天の星の下で、星たちのめぐるゆりかごにゆられるなんて……。

神戸の満天の星を思い出しながら、

「三つ星さんが出まんねん。三つ星いう大きい星さんでな。三つで横にひっぱってまんねん。小さいのがひっぱってる」

と、オリオン座三つ星、小三つ星について語ってくれたのは、明治三十九年生まれ語りべ。

語りべは、一〇〇〇万ドルの夜景が神戸にまだないころ、星をめててに船を進めたり、時刻や季節を知り、そして、星たちのめぐるゆりかごにゆられて眠りについたのでした。

語りべの話は続く。

「紀州の方、和歌山の方、まあ大きい星出まんのや。紀州のみかん星いう……」

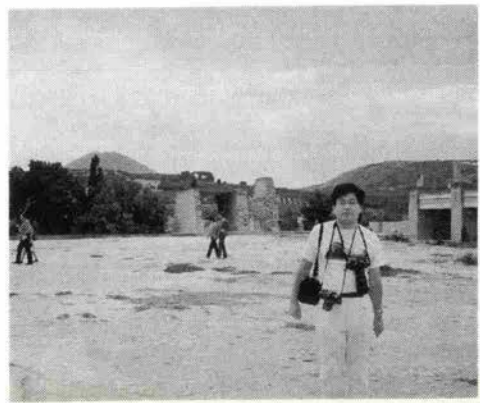
紀州のみかん星は、アルゴ船の骨の部分で輝くカノープスのこと。カノープスは紀州の方から現れるので、紀州のみかん星と呼んだのだった。

神戸の満天の星を想像しはじめる。波の上を歩くオーリーオン、そして、南の空低く少し顔を出すアルゴ船……。八年前に訪れたエーゲ海の星空と重ね

あわしている自分に、ふと気づく。そうだ！エーゲ海とほぼ同じ緯度で船を進めてきた語りべは、エーゲ海と同じ星たちのめぐりのゆりかごにゆられてきたんだ。でも、アルゴ船の星物語はいろいろなところで語られても、語りべの伝えてきた紀州のみかん星という神戸のふるさとの呼び名のほうは、このままなら一〇〇〇万ドルの夜景のなかで、永遠に失われてしまう。

せめて、一月一日だけでも、一〇〇万ドルの夜景を、ゆっくりと休ませてあげられないものだろうか。そして、海と山と星にかこまれて、紀州のみかん星の星物語を語りながら、眠りにつくことができたいものだろうか。

クノープス宮殿にて。
クレタ島は数々の星物語の舞台だ。



海と人間

福元 早夫

〈作家〉



少年のころ、日がな一日、裸で海と遊んでいたものである。太陽に焼かれ、波に洗われて飽きることがなかった。女友達と肩をならべて歩いたのも、海だった。海は青春そのものだった。

孤独におちこむと、海を見に行つたものである。海へ行って、自分を見つめた。海はことばをもっていた。生きる力を与えてくれた。海は故郷へつながっていた。世界へひろがっていた。

結婚してしばらくして、妻の父親と死別したとき、海へいった。遠い南の国の、小さな島で生まれ育つた義父のために、浜砂を麻袋にいっぱい詰めこんで「昆陽里」まで自転車ではこんだ。小石もまぜておいた。国道一七号線を息をはずませてペダルを踏みながら、何度かハンドルをとられてしまひそうになった。

義父の眠る墓石の周囲を、浜砂や小石で敷きつめた。ぶんと潮のおいがした。義父の眠りがいっそう深くなったように思えた。甘い潮のかおりを嗅ぎながら、両手を合わせて長い祈りをこめた。

子供ができて歩きはじめると、海へつれていった。小さなカニを追い、めだかのような魚をおいかけて、父と子は海ではしゃいだ。海を見ながらおにぎりをひろげ、子供はジュースを、父親は缶ビールを飲んだ。二人目の子供も、海へつれていった。年子だったので、海へむかう父親は、自転車の前と後ろに子供をのせていた。

三人目は女の子だった。海とあそばせた。太陽が明々と照らした海は、あちこちで親と子が遊んでいた。四人目の女の子も、海へ行くころ、海へいこう、と父親の手をひっぱった。海は子供たちを育てた。父親の心をなごませた。

海へ行かなくなって、どのくらいつのだらう。無性に海を見た



埋めたてられた西宮沖。
海はだんだん遠くなっていく。

なくなった。行っておどろいた。海はもう、海ではなくなっていた。一面土で埋められて、はるか沖合いへと追いたてられていた。海を遠くへ押しやった広大な埋めたて地に「海と人と都市のルネッサンス」をめざしたマリナシティが建設されるのだという。賑わいのゾーン、文化のゾーン、憩いのゾーンに構成され、海やヨットの楽しさを満喫しながら、さまざまな遊びを通して、新しい文化が創造されるシティリゾートをめざすのだというのである。

雨が降ってきたせいか、海が涙をながして泣いているように思えてならなかった。



西宮の初詣でに

ネオ・アルチザンを想う

米花 稔

△神戸大学名誉教授・福山大学教授▽

つた。

西宮に住むものの初詣ではまず戎さんである。その本殿の横に小さな百大夫神社がある。一七世紀末ごろここ産所町辺りに住む四〇軒ばかりの傀儡師の祖先を祀ったと伝える。くぐつ師は各地を巡る人形操りの技術者群で、ここからやがて淡路の人形浄瑠璃、そして大阪の文楽へと華ひらく。たまたまか必然かこのすこし南に、昨秋紫綬褒章を受けられた東京生れの吉田文雀師が住んでおられる。今文楽を支える女形遣いの名手として名人故文五郎師匠をうけついで国立文楽劇場で活躍しておられる。地元では平成二年、三年とつづいて夏の一夜ながら白鹿酒造博物館の酒蔵文楽に演じて盛況であ



傀儡師故跡

足を東にのびしJR甲子園口駅から北へ数百米にイザナギノミコトを祀る熊野神社がある。その境内に「割算天下第一 重能の碑」が昭和四七年一〇月たてられ、翌年一〇月から傍らにささやかな算学神社がある。前者は元和八年毛利勘兵衛重能がはじめて割算書を著した顕彰で有志の協力で理学博士平山諦氏が建て、後者はその重能を祀るのに大阪のそろばん業者の建立、玉垣に全国珠算教育連盟の名がある。重能は京都で和算塾を開いて活躍したがもとの神社近く瓦林村の住人であったから。筆者もメンバーのキワニスクラブの昨年九月広島での日本地区大会での日本キワニス文化賞は雲州そろばんの手づくりの名人島根県の永場三郎氏に与えられた。この賞は毎年世間に知られない工芸家職人などを対象としているのである。電卓、パソコン時代になってもそろばん塾は盛んで、東京の神田神保町あたりを歩くと、そろばん専門店があり文房具店でも雲州そろばんの看板が眼につく。もともと現在全国生産百四十万丁の七割は兵庫県東播の小野市の地場産業に

算学神社

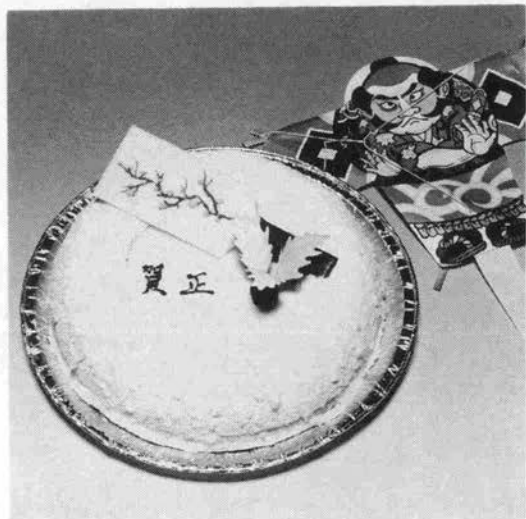


よるものであることは付言しておく。これら伝統芸能職人技術を想うと、昨秋の兵庫県科学賞を受けた龍野市の極東産機株式会社(極東)の頃安新社長の試みに触れたくなる。同氏はこの三〇年ひたすら現場の職人の熟練を対象として数値制御装置の開発にとりくまれてきた。自動量製造装置、インテリア内装自動壁紙糊付機、全自動体育用マット編機等。現場技術の革新と新職人のあり方を想う。

ここで本誌姉妹誌「オール関西」昨年九月号での「新時代を拓くネオ・アルチザン」の座談会で、服飾関係、美容関係の方と、アーチスト、ネオアルチザンなどについて話合ったことを想起する。また近頃新「職人文化論」を散見もする。

伝統の技能技術を保存継承しつつ革新時代に即した新職人像も求められつつあるようである。間近い廿一世紀にさらに一年近づきつつ、西宮の初詣でに、これらの課題を考えさせられる新年である。

▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲ ▲
 '92 年
 頌 春
 ▲ ▲



今年もよろしく
 お願い申し上げます。

— 北 欧 の 銘 菓 —
2-ハイム・コンフェクト



SAMOTO CLINIC



ママといっしょに



赤ちゃん：山下 ^{さと}紗都ちゃん (平成3年1月5日生)
 ママ：美代子さん お姉ちゃん：侑乃ちゃん ^{ゆきの} ^{あき}亜葵ちゃん

「三人姉妹仲よく健康で、思いやりのある優しい子になって欲しいです。」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
 ☎575-1024 (病室 ☎576-9639)
 市バス上沢4 停南スグ

随想

旅のかたち

20

乗りかえて

安水稔和

絵／中西 勝

朝とびおきて、家をとびだす。地下鉄で新神戸へ。みどりの窓口で乗車券と特急券を買って。このごろもって買うことはめったにない。思いたつて前夜宿へ電話を入れて出かけることが多くて、前からきままっている旅行であっても前もって買うのがおっくうで、つい当日駅で買うことになる。改札の手前の売店でいつものように駅弁を買って。いつものようにというのは、新幹線で遠出するときには朝食をとらずに家を出て駅弁を買って車内でたべる、それが楽しみなのだ。お目当てはコウベワインのついたワイン弁当だが、店頭に出る時間がおそくて数もかぎられているそうで、めったに手に入らない。それで、まんなかにご飯があつてそのまわりにちまちまと十数種のおかずが並んでいる変り幕の内ということになる。

乗車券・特急券と弁当、それに缶ビールの三点セットを手に、ホームを駆けのぼって待つことしばし。通過列車が走り抜けて、そこで気づく。上りじゃないか、あれは。とすると、ここは上りホーム。今日は西へ行くんじゃないか。あわてて階段駆け降りて階段駆けのぼって、下りホームに移る。あぶなかつた。一息入ると列車が入ってきた。禁煙車に乗りこむ。ほぼ満席。なんとか座ってなんとなくぼんやり。これは走る筒、座っていればいいだけの、などと考える。駅弁取り出して

目の前に置いて、姫路を出てからたべようと考え。もう着くころなのになかなか停らない。窓の外をぞくと見おぼえのある西播の山々だ。この列車、姫路にはとまらないんだ。あわてて、とってもあわてる必要はないのだが、とりあえずあわてて駅弁ひろげて、たべおわたとたん岡山。どやどやと人が降り、どやどやと人が乗ってくる。走る筒、そのまま広島まで疾走。

広島で下車。呉線に乗りかえる。各駅停車。向洋、海田市、矢野、坂、小屋浦と駅がつづく。はじめの二つは、むかいなだ、かいたいちと読む。いかにも趣のある海ぞいの地名だ。あと三つは、やの、さか、こやうら。これは読める。海が見える。島が見える。海と山のあいだを電車はゆっくり走る。線路わきのあの浅緑はなに、あの白いものはなに。淡い冬の日ざしのなかの時ならぬいちようの新芽、桜の花。今どきどうして。道を歩いている女。自転車に乗った少女たち。走る犬。

新神戸から広島まで三百キロ、九十分。広島から呉まで二十六キロ、三十五分。新幹線が時速二百キロで、呉線が時速四十五キロ。新幹線と同じスピードで広島から呉まで走ると八分で着く計算になる。八分を三十五分かけて電車が走る。